



代表取締役社長
中川 文之 氏
なかがわ ふみゆき

社長が語る
「ものづくりへの想い」

明るい未来を拓くのは、つねに「人と技術」。社会の動向を敏感にとらえ、先進技術に蓄積された人間の英知とアイデアを吹き込みながら、一つひとつの製品を具現化したいと考えています。



部品を組み立てる溶接加工をロボット化し、オペレーターの操作性と作業効率を向上させた。



約1分間に1台を組み上げる溶接ロボット。8時間稼働で480台を生産し、量産化への体制を構築した。



本社・埼玉工場

monozukuri
7

業務用機械器具製造業

株式会社
中川機器製作所

〒879-0313 北九州SDセンター
大分県宇佐市大字上高字糸口1-23
TEL 0978-25-6195

前は部品の加工や溶接の全般を作業員による手作業で行っていましたが、扱う部品サイズが大きくなり、1台の組み立てに対する溶接箇所が増加が課題に。スポット溶接ロボットは、複雑な溶接加工や部品の重さに関わらず、均一な品質と安定した作業スピードで稼働。ロボットならではの正確さが生産性を高めています。

ロボットの導入にあたり大きな強みとなったのは、自社の技術センターが開発した独自のプログラム。オートメーション化を図るプログラムはロボットの作業動作に反映され、スムーズな組み立てを実現。また製品にあわせてプログラムを変えることで、新しい設備

独自のプログラムを開発
組み立てをオートメーションに

投資をすることなく製造コストも低減。5年に1度といわれる新型自動車の製造にも柔軟に対応できるようにしました。さらに組み立てのロボット化はオペレーターの作業負担を軽減。オペレーションでのミスを防ぎ、安全性を高めた働きやすい環境は、地元での積極的な雇用と人材の育成にも大きな変化を生み出しています。

プレス加工メーカーとして埼玉県に本社を置く中川機器製作所では、金属塑性加工・精密プレス金型などの分野において、プレス加工に求められる大量生産品のコストメリットと品質の安定化を実現。高品質であることはもちろん、多種少量品でのコストダウンに挑戦しています。

コストダウンに挑戦する
革新のプレス加工メーカー

おもに自動車部品の生産・加工を行う同社は、埼玉県、宮崎県に生産拠点をもち、さらにタイ、中国まで海外工場を拡大。自動車産業を支える生産工場としても、大きな存在価値を示しています。そのなかにおいて宇佐市にある北九州SDセンターは、金属加工からプレス加工まで一貫して行う宮崎工

海外に生産工場を拡大
自動車産業を支える存在に

場の製品を集約し、部品を組み立てるのが主な事業に。完成品はセンターから各自動車メーカーの生産工場へ届けられています。

作業効率を大幅にアップ
品質とスピードの安定化

monozukuri-7 Nakagawakiki

7 株式会社 中川機器製作所

品質と作業スピードの安定化
正確性を極める技術が強み



自動車部品の組み立てに大きなチカラを発揮するロボットシステム。自社開発したプログラムが作業効率の向上を図る。



自動車用バックドアの骨組み製造と量産化に向け、スポット溶接機と連動させた溶接ロボットシステムを開発。ロボットの作業動作を独自にプログラミングし、作業工程と溶接工数の大幅な削減を目指した。

導入のポイント
作業工程を削減
溶接ロボットシステム